



## 米づくりの始まる前の暮らし

# 不動堂遺跡



大家庄地区にある不動堂遺跡を知っていますか？

不動堂遺跡は、国の指定文化財になっている大変貴重な遺跡です。私たちの祖先がこの朝日町でどのような生活をしていたかがうかがえる資料としても大変大切なものです。この遺跡の学習を通して、昔の人々の暮らしにふれてみましょう。

この遺跡は、昭和48年から、ほ場整備のさいに先駆け、発掘調査が行われました。縄文時代中期の居住跡が19棟、食料貯蔵庫と考えられる深い穴が9個、同時代の土器や石器が多数発見されました。



### いつごろのもの？

- ・ 縄文時代中期の前半（約4,500年～5,000年前）のもの

### 出てきた物は？

- ・ 竪穴式住居跡約20戸。食料の貯蔵や加工用の穴、多数。
- ・ 土器、石器、ヒスイ原石、黒曜石など多数。

### どのようにして造られた？

- ・ 地面を円形や四角形に掘りこんで土間をつくり、炉を設け、柱を立て、その上に木の枝やカヤなどで屋根をつけて造った。
- ・ 設計図を造り、みんなが協力して造ったものと思われる。



## 復元にあたって

※ 縄文時代の共同体や生活様式を学べるよう、3棟の住居跡を復元しました。

### だ円形の復元住居

- ・ 第1号復元住居 24㎡
- ・ 第2号復元住居 120㎡(たたみ70枚分の広さ)
- ・ 第4号復元住居 35㎡

復元のために集められた材料は、一束直径15cm、長さ1mから1.5mのカヤ一万束を始め、ナラやカシ、栗などの柱材その他、縄代割りのマンサクやフジづるなどの補足材など、ざっと43㎡、一年がかりで集められました。

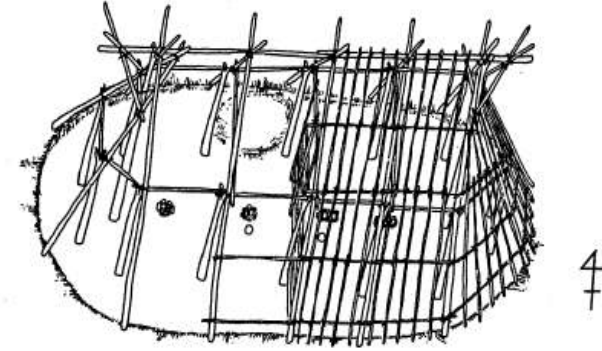
石器時代、道具のない当時は、もっともっと苦労したにちがいありません。



<見学メモ>

### 国内最大級の第2号復元住居

第2号住居復元想像図



- ・ 遺跡のほぼ中央部に位置する。
- ・ 東西17m、南北8mの小判型。
- ・ 2室に区切られ4個の石組炉と2個の埋がめが等間隔でならぶ。
- ・ 柱跡が14個、等間隔でならぶ。
- ・ かりや祭りなどを相談する集会所あるいは村の人々の作業所だったのではないかと考えられている。

### 発くつ当時の第2号住居跡



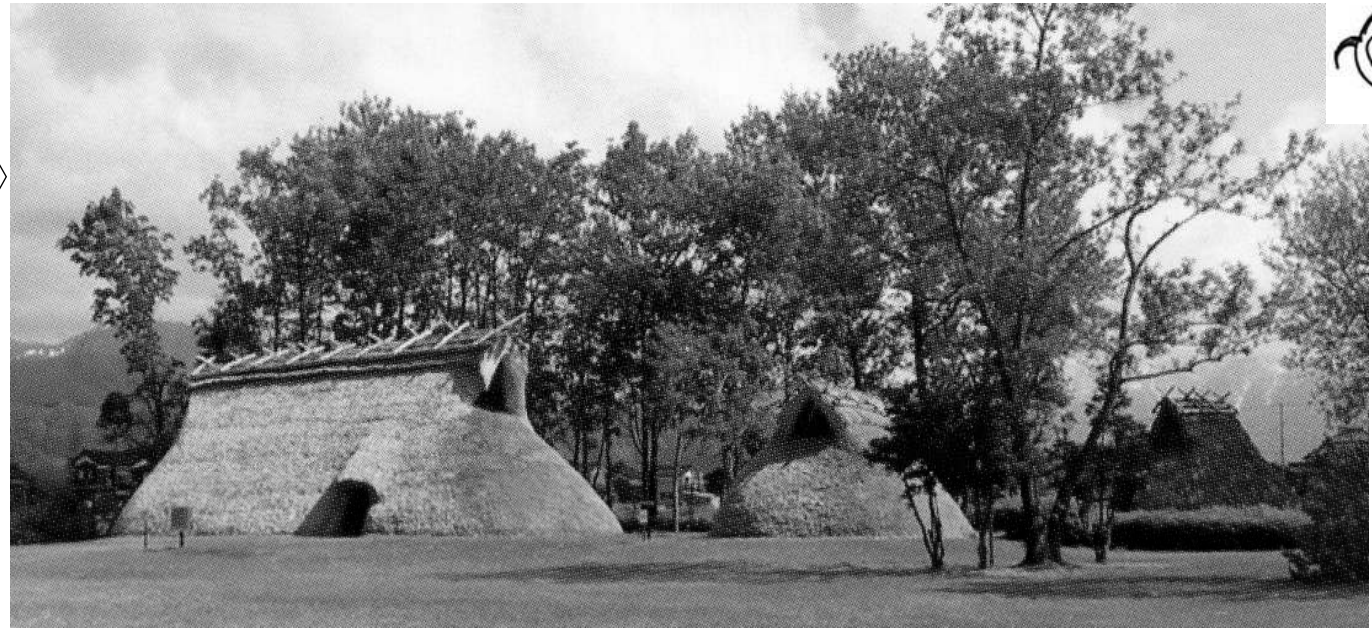


竪穴住居の中は、夏はずずしく、冬は炉で火を燃やすと暖かく、寒さがしのげます。

また、夜は食べ物の煮炊きや夜の灯りに、そして住居の湿気を取り除くのにも役立ちます。

屋根に魚などをつり下げておけば、薫製ができあがり、木の実は乾燥保存ができます。

釘をいっさい使わない住居の作り方とともに、古代人の生活の知恵のすごさを感じます。



第2号復元住居

第4号復元住居

1号復元住居

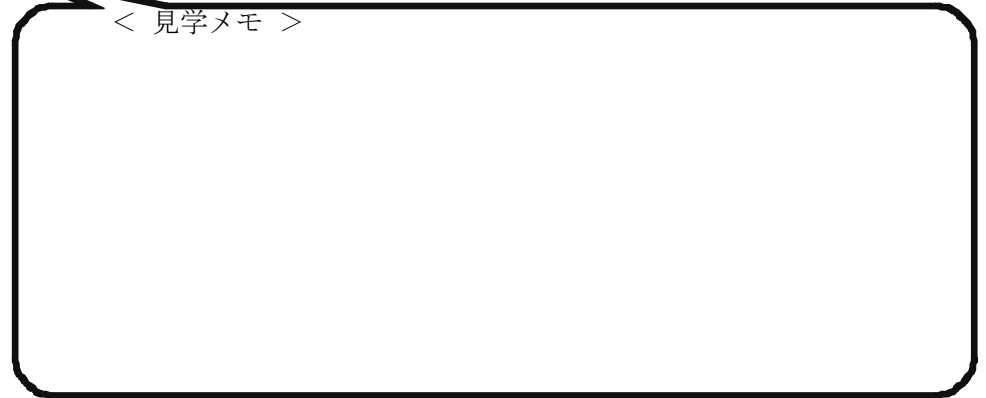


第2号棟の居住跡は遺跡のほぼ中央に位置し、東西約17m、南北約8m、面積約120㎡にも及ぶ小判型の巨大なものです。

国内最大級の竪穴居住跡であり、他の一般の居住型の4～5倍もある大きさで、内部に四個の石組炉があります。

二室に区切られている構造などから、普通の住居ではなく集会場のような公共性の建物と考えられています。

< 見学メモ >

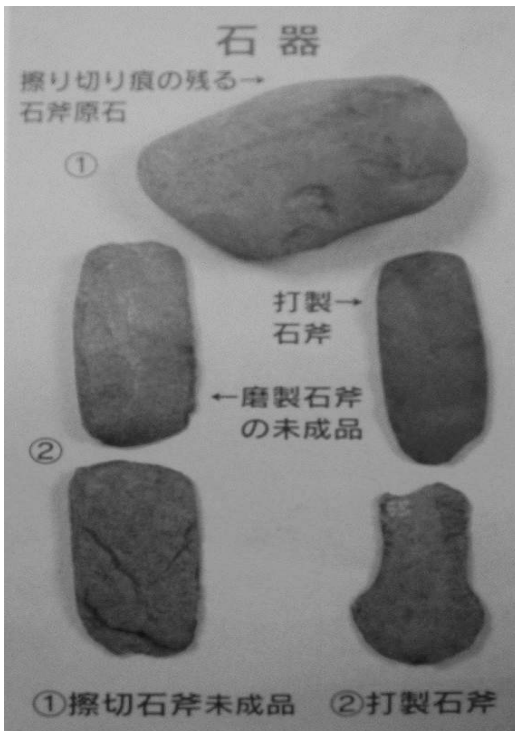


## 土器にこめられた縄文人のメッセージ…！？

**飾りの数：** 飾りとして作られた突起部分の数が不思議と「奇数」なのです。偶数のほうが等分にでき作りやすいのに、わざわざ奇数としたのは、縄文人が奇数に神秘的なあこがれをもち、なんらかの意味をもたせていたのかもしれない。

**縄模様：** 土器の表面に、縄を転がして模様をつけたものがあります。縄の編み方や転がし方で模様を少しずつ変えることができます。1本の縄から作り出される模様のパターンは200種類以上も見つかっています。縄文人は土器の縄模様にどんな思いをこめていたのでしょうか。

## 不動堂遺跡出土遺物



## 縄文土器

深鉢形土器（前葉）



縄文時代の人々は、どんなふう  
に土器や石器を使って  
いたのかな？



鉢形土器の口縁部分（中葉）



## 35cmのものさしが存在した？

第2号居跡の柱穴は規則正しく左右対称に並んでおり、長さの基準になった物があったことが推測されます。

- ・南北の柱の間隔 4.2 m  
(35cm×12)
- ・東西の柱の間隔 2.8 m  
(35cm×8)

これらから縄文時代には35cmを単位とする「ものさし」のような物があったと考えられます。

## 縄文人はヒスイを好んだ？

ヒスイの緑色は、大自然をイメージさせ、神秘的な光を放ちます。かたくて加工しにくいヒスイは、装身具として価値がありました。労力を伴うものに、縄文人は、価値観を見出していたのでしょうか？

朝日町 6年生社会科学習会

# 「朝日町の米づくりの始まる前のくらし」

さみさと小学校 6年 名前( )  
《 》グループ

- 1 学習内容 「朝日町の米作りの始まる前のくらし」
- 2 日時 平成24年5月16日(水)
- 3 参加者 さみさと小学校6年生 73名
- 4 場所 不動堂遺跡、まいぶんKAN
- 5 日程  
8時45分 学校出発：スクールバス  
8時55分 不動堂遺跡着  
9時00分～ 9時10分 整列、日程説明等  
9時10分～10時00分 不動堂遺跡見学  
10時10分～11時20分 まいぶんKAN見学  
(館内ウォークラリー)  
11時30分 まいぶんKAN出発：スクールバス

まいぶんKAN

まいぶんKANには、不動堂遺跡で発掘された土器が保存されています。土器の特徴や、土器の使用方法などについて調べてみましょう。



年 表

時代	旧石器時代	縄 文 時 代	弥 生 時 代	古 墳 時 代
年代	30000～10000年前	10000年前～ 8000年前～ 6000年前～ 5000年前～ 4000年前～ 3000年前～	2300年前～	紀元後300年～
主な生活の移り変わり・主な出来事	石刃と打製石器が使われた ナウマン象やオオツノ鹿がいた	磨製石器・縄文土器・弓矢が使われる 竪穴住居に住み始める 竪穴住居での定住生活が営まれる 貝塚が形成される 耳飾や装身具の製作がおこなわれる 土器の文様が装飾的になる ヒスイの玉類の生産がおこなわれる まじないの道具が製作される 大型住居が作られる 擦り切り定角磨製石斧が生産される 特殊な石器が多くなる まじないの石器が発達する 火炎土器がみられる	銅鐸・武器的祭器による祭祀がおこなわれる 小国家が形成される 稲作・金属器の使用が始まる 東北地方の文化が伝わる	家族的な横穴墓が作られる 大陸から須恵器の生産方法が伝わる 近畿地方に前方後円墳が現れる
朝日町・県・国の主な遺跡	岩宿（群馬県） 北野台	柳田（尖頭器） 馬場山D 馬場山D・F 明石A 三内丸山（青森県） 境A・柳田 三峰遺跡群 馬場山遺跡群（石器・ヒスイ玉類の生産） 愛本新（黒部市） 境A（磨製石斧・ヒスイ玉類の生産） 馬場山遺跡群（石器・ヒスイ玉類の生産） 三峰遺跡群 境A・柳田 明石A 三内丸山（青森県） 馬場山D・F	三浦柳田境A 柳田境A 下山新 境A 桜町（小矢部市） 馬場山遺跡 不動堂 栃木山（石棒・玉類） 下山新（石棒・土偶・釣手土器） 大境洞窟（氷見市）	石舞台古墳（奈良県） 藤ノ木古墳（奈良県） 高松塚古墳（奈良県） 明石D・A 馬場山D・F 浜山玉づくり（ヒスイの勾玉などが作られる）
		